

ネット向け通信サービス

規制緩和・技術革新追い風

一般家庭でも時間を気にせずインターネットを利用したいという声が強まる中、ネット向け定額通信サービスの新規参入が相次いでいる。規制緩和や技術革新の追い風を受けた「定額かつ低額の高速サービス」が売り物だ。日本電信電話（ＮＴＴ）グループがほぼ独占してきた地域通信に風穴をあけ、ネット経済離陸のけん引役になれるか。通信ベンチャーを率いる仕掛け人たちの動きを追った。

ＮＴＴの銅製電話線を使った高速データ通信が可能になったことにいち早く呼応したのが、通信機器輸入販売のベンチャー、ソネット（東京・墨田）の小林博昭社長（55）。ソフト開発ベンチャーの数理技研（東京・新宿）の東条巖社長（55）と組み、七月に「東京めたりっく通信」を設立、社長に就任した。

めたりっく通信の小林社長は、電話線での高速データ伝送技術であるＡＤＳＬ（非対称デジタル加入者線）の先駆者で、東条社長とは高校の同期生。ネット向け通信インフラに対する不満と危機感で意気投合し、「米国を追い越すため、低額・高速通信の先導役になる」と意気込む。

ソフトバンク、東京電力、米マイクロソフトが九月に設立したスピードネット（東京・中央）の真藤豊社長（52）は三井物産の元メディア事業部長。ＣＳ（通信衛星）デジタル放送「パーフェクＴＶ」（現スカイパーフェクＴＶ）の仕掛け人の一人。パーフェクＴＶ出向中に、「ＪスカイＢ」との合併交渉でソフトバンクの孫正義社長と渡り合ったのが縁での転身だ。

真藤社長は真藤恒・元ＮＴＴ会長の三男だが、「ＮＴＴに対する特別な意識は全くない」ときっぱり。六月に孫社長と会食した際に「大事業を任せたい」と切り出され、「ビル・ゲイツ（マイクロソフト会長）とブロードバンド（高速・大容量）のインターネットをやるんでしょ」と切り返した。

社長を引き受けるつもりはなかったが、「助言するうちに断りきれなくなってしまった」。来夏のサービス開始に向け多忙な毎日を送っている。

定額制の高速ネット接続で先発のケーブルテレビ（ＣＡＴＶ）もじわじわと利用者を増やしてきた。ネット接続契約数が一万世帯を突破したタイタス・コミュニケーションズ（東京・渋谷）のリー・ダニエルズ社長（42）は米ＡＴ＆Ｔの元日本法人社長。「ケーブル網は一般家庭に直結したブロードバンドインフラとして最も優れている」と力説する。

ＮＴＴの東西地域会社も十一月開始のネット向け定額通信料金を当初予定の月一万円程度から八千円へ引き下げた。持ち株会社の宮津純一郎社長（63）は「値下げに向けて努力する」と宣言する。ベンチャーから異業種までも巻き込んだ競争が本番を迎える。

（産業部 渡辺園子）

一般家庭向けのネット定額通信サービスの概要

企業名	使用する技術・インフラ	月額料金	開始時期
東京めたりっく通信	ＡＤＳＬ	5500円程度	11月中
スピードネット	無線、光ファイバーなど	5000円以下など	2000年半ば
タイタス・コミュニケーションズなど	ＣＡＴＶ	5000～6500円	提供中
ＮＴＴ東日本・西日本	ＩＳＤＮ	8000円	11月1日

（注）インターネット接続には通信料と接続料が必要。
は接続料込み